

排骨麺に東坡麺、そして蝦仁は湯麺か炒麺か。気になる中国料理店の麺。

2021年2月20日発行(毎月1回20日発行)第28巻5号

CARREL

2021
Vol.323
定価550yen

3

キャレル

「もっと深く、もっと豊かに」
新潟ライオンを輝かせる

MITSUJKE KNIT × 月刊キャレル

誌上販売
綿×カシミア
春になったら
着たい服

特集●
知っているようで知らない
漢方の基礎知識
漢方についての
素朴なギモン
Q&A

仕事でいつまで働きますか？
はたらく。

クッキング●
滋養強壮にニラの料理

シリーズ特集●
ひとりで豊かに新潟で暮らすには
おひとり同土委員会
【その十一】
大雪のときの「雪かき」、
どうしてますか？

キャレルインタビュー●
渡部 佳則さん
〈写真家〉

巻頭
特集

至福の麺。

S.H.S × CAVE D'OCCI

時と場は一日にしてならず

今年の2月17日で、鳥屋野湯へ移転して20年。3棟ある倉庫を改装してスタートした「S.H.S鳥屋野店」は、今年年間13万人もの人が訪れる場所になった。そのきっかけとなったのが2005年、「カーブドッチ」によるレストランの出店だと、S.H.S代表の城丸正さんは振り返る。家具店とワイナリーという異色のコラボレーションが創り出したのは、今までになかった新しい商売の場とカタチ。共にがむしゃらに駆け抜けた16年。その秘話をS.H.S、カーブドッチをそれぞれ代表する4人にうかがった。



S.H.S鳥屋野店内にある「カーブドッチとやの」にて。マテバシイなどの常緑樹やケヤキを借景とした開放的な空間が広がる。左から(株)カーブドッチ今井社長、掛川副社長、(株)ツールボックス城丸正会長、城丸学社長

家具とワインが繋いだ縁

城丸正 うちの店はリサイクルショップとしてスタートして、まず新潟大学エリア、その次に古町3番町に移転して、鳥屋野湯に移って今年で20年になるんです。よく20年もやってこれたなと自分たちでも思うんですが、今こうして続けられているのは、最初にカーブドッチの出店があったからこそだと。家具の販売だけで20年なんてねえ……とてもしゃないけど続きません(笑)。

掛川 「カーブドッチとやの」のオープンが2005年でした。その時、巻のカーブドッチはすでにワイナリーとレストランもあったのですが、来るのはタヌキとウサギばかり(笑)。なかなかお客さんが来なかったんです。

今井 まだ認知度はなかった頃ですね。小さな看板とひたすら続く林と砂利道を抜けていく場所にあつて「3回目です」とたどり着いたという方がたくさんいます。

城丸正 初めてカーブドッチを訪ねた時の衝撃は、今も忘れられませんが、「こんな自然しかないところに人を呼べるの？」って。今まで商売というものは、町の中心部でしかできなと思っていただが「一気に覆されました」。

掛川 逆に私たちは、もつと新潟市内の方たちに、カーブドッチのことを知ってもらわなければと思い始めていたタイミングでした。

城丸正 そうだったんですね。私た

ちも鳥屋野湯に移転して数年経って、家具だけではお客さんと呼べないと感じて。じゃあどうする？と考えた時に、巻で見たカーブドッチの世界観をこどもでも表現できないかと考えたんです。それで、ダメもとで当時社長の落さんと掛川さんに出店をお願いに行ったら、まさかの即OK(笑)。驚きましたよ。

掛川 当時の社長だった落さんをEに連れてきたんですけど、この窓の外の緑と開放的な空間にほれ込んでね。城丸さんからは「どの場所でもいいですよ」と言われていたけど、もう絶対ここしかない。カーブドッチも角田山周辺の景色を見て「こーだー」と思って、こーいう直感で当たるものだな。

今井 僕も「カーブドッチとやの」

のオープンに関わりましたけど、お互いに初めての試みでしたから、僕らも本当に手探り状態。メニュー構成や厨房周りのことも、オープン当日の朝までこの場所まで徹夜が続きました。きつかったなあ(笑)。

城丸学 それ以前に、お二人は古町に店があった頃に、Eのお客さんだったそうですね。

掛川 カーブドッチがEに出店する前から、城丸会長とは面識がありました。私好みのユーズドの上質な家具や小物が置いてあって、鎌倉

から新潟へ移住した時も家具はEでそろえました。

今井 僕も新婚の頃、古町のお店でカーテンを買いました。「米軍の払い下げの家具屋」って城丸さんは謙遜されるけど、他とは一線を画したお店でしたよ。

掛川 そんな城丸さんからのお声がけでしたからね。断れるわけがない(笑)。

城丸正 振り返ってみると、何気ない出会いからお付き合いが始まるものだなと思いますよね。

場の魅力は一目見たときの直感で感じるもの

食は人を幸せにする

城丸学 「カーブドッチとやの」ができてからは、ランチで2時間待ちが続いたり、広い駐車場が満車になったりと、私たちに与っては驚きの連続でしたね。

城丸正 あと、すごいなあと思ったのが、ここでお食事をされた皆さんが幸せそうな顔で出てこられること。

城丸学 それまでは、家具を真剣に選ぶ、険しい表情のお客さまの方がどちらかというと多かったんです(笑)。おいしい料理を食べて、その幸せな気持ちを持ったまま、家具を見て行くという今までにない新しい流れができた。だから、来客数も家具の売り上げもぐっと増えたんですよ。

掛川 それはうれしくなりますね。家具って結婚したり家を建てたり、お子さんが産まれたりと、人生の節目に買うことが多いですね。S.H.Sは「家具は消耗品ではない」という考えがしっかりとあるお店で、その中に私たちもお店を持つということ、いろんな方の人生に長く寄り添っていくような楽しみがあるんです。

が、そのために何を、どう変わるかと常に考えているところが、私たちと共通しているんです。

城丸正 「誰に」「何を」「どのよう」に提案するか」という部分ですよね。それはもう、私は商売をする上での三原則だと思っています。

今井 あと、こうして長年コラボして思いますが、商売を成立するには誰と組むかと、場所も大事だったんですね。

掛川 そう。パートナーとしても、鳥屋野潟という場所も、そういう意味でも大成功でした。お互いに初めのことだらけだったけど、無我夢中でやってきたから今こうして続いているんですね。あと、一番うれしかったのは、S.H.Sのスタッフさんとうちの店長が結婚したことね！

城丸正 ありがたいですよ。16年一緒にやらせてもらっていると、スタッフ同士の結婚とか、予想外のうれしい出来事もあるものです。それに、掛川さんはたまにお会い

今井 巻の本店はお子さんの入店をお断りさせていただいているんですが、そういう意味もあって、「カーブドッチとやの」は家族連れの方も気軽に来ていただけるようにしたんですよ。

掛川 例えば「子どもを連れて、お昼においしいもの食べたいね」という時に思い浮かべて、気軽に足を運べるお店だと思ってもらえるとうれしいかな。それに、ここに出店して、カーブドッチの認知度とブランド力は高まったと思いますよ。相乗効果ですね(笑)。

城丸正 そのおかげで、女性のお客さまが圧倒的に多くなりました。それまでは「うちに興味がある人だけが来てくれればいいや」と

思っていたけど、そんなことは言ってもらえない(笑)。食という異業種と組むことでここまで変わったのだから、今までの商売のやり方や場所にこだわって変化を恐れている場合じゃないと思っただけです。

**変わるために、
変わらないこと**

掛川 城丸さんとお話していても思うのが「変わっていくためには、真髓が変わらないこと」。それが大事なんです。私たちはワインを売ることで、城丸さんは家具を売ることがそれに当たると思います

した時に「城丸さん、年中無休は売人の心意気ね」とグサツとくることを言ってくれる。貴重な存在に恵まれたなと思っています(笑)。

掛川 私たちは同じ年で、息子同士も同じ年。何かと気が合うんですよ(笑)。仕事に対する考え方も似ているのかもしれない。

城丸正 私、その昔、朝から晩まで働いてたから、「セブンイレブン」ってあだ名でしたよ。仕事ってものは、衣食住と同じように生活の一部でありつつ、もう生き方そのものだと思っています。それだけ面白くて、時間を忘れて夢中になれるもの。だから最近流行の「ワークライフバランス」というのは理解できない(笑)。ただ、次世代はそれをどう捉えるかですよ。

今井 お二人は創業者で、身近で見ていて周りを巻き込んでいく力が半端じゃなかったですね。僕は今、一人の客としてS.H.Sに入っているテナントを見て回るのも楽しくて、つい何か買ってしまう(笑)。「こ

芯がぶれていないから 挑戦と変化に敏感になれる

「もの」の消費ではなくて、ここで時間を過ごすこと自体が楽しい。これからは、お客さまの過「時間」というものをさらに価値あるものにできる仕掛けを考えていきたいです。

城丸学 今までやってきたことに、さらに磨きをかけなければならぬ時代だと思います。あとは、今までやってきたことを生かせる場は何だろうかと考える。変化や失敗を恐れずに、誰よりも早く挑戦するか。「カーブドッチとやの」で運命が変わったように、それはこれからもあらゆる場面で見極めていかなければなりませんね。

常識に縛られない
ローカルの面白さが人を呼ぶ



S.H.S

CAVE D'OCCI



(株)カーブドッチ代表取締役副社長
掛川千恵子
Chieko Kakegawa

1950年愛知県名古屋出身。38歳で既婚女性のみで構成された企画調査会社を鎌倉市で設立。1992年、(株)欧州ぶどう栽培研究所を落希一郎氏と共に設立。新潟市内の直営店、温泉施設、オーベルジュの開業など多角的に企画・運営。



(株)カーブドッチ代表取締役社長
今井卓
Takashi Imai

1967年上越市出身。1994年にカーブドッチに入社し、ワイナリーの立ち上げに参加。ぶどう栽培・ワイン醸造経験、直営店などの運営を経て、2012年に現職。(株)いがたワインビレッジ代表取締役も兼任。現在はワインの製造・販売から飲食事業と幅広く携わる。



(株)ツールボックス代表取締役社長
城丸学
Manabu Shiromaru

1980年新潟市秋葉区出身。子どもの頃から父・城丸正氏の元で家業を手伝い、2001年、「S.H.S鳥屋野店」の開店と同時に社員としてオープニング事業に参加。販売スタッフ、専務取締役を経て、2020年に現職。



(株)ツールボックス代表取締役会長
城丸正
Tadashi Shiromaru

1950年新潟市秋葉区出身。32歳の時にリサイクルショップ「ツールボックス」を運営開始。古町3番町の店舗から、2001年に鳥屋野潟に「S.H.S鳥屋野店」として移転オープン。2008年には長岡市高畑町の旅館を改築し「S.H.S長岡店」を構える。

S.H.S
SWEET HOME STORE

S.H.S TOYANO

〒950-0948
新潟県新潟市中央区女池南3-5-1
TEL:025-290-8220

S.H.S NAGAOKA

〒940-0825
新潟県長岡市高畑660
TEL:0258-32-5771